

活動報告書をお届けします

東北地区高等学校PTA連合会 進路対策委員長
全国高等学校PTA連合会 進路対策委員
青森県立青森西高等学校 PTA会長

中 村 美津緒



保護者の皆様におかれましては日頃のPTA活動にご尽力のことと思います。さて、高校生を持つ親にとってお子様の進路希望達成は最大の関心事の1つではないでしょうか。進学でも就職でもお子様の第一希望をかなえ、夢の実現に向かって羽ばたくために、親として最大限の手助けをしたいと願うのは、いずこの親も同じかと思えます。

今日、私達の子どもを取り巻く社会状況はグローバル化の進展やIT技術の進化等に伴い、働き方改革や外国人労働者の受け入れ問題、さらには社会の求める人材育成のための高大接続改革など、めまぐるしく変化しています。一方では地方の過疎化、都会での待機児童の問題、高齢化社会への対応など、解決しなければならない直近の問題もございます。将来が見通せない社会状況の中で私達は子どもの進路についてどのようなアドバイスを与えればいいのか、私達保護者自身が今まで以上に積極的に学ばなければならないのではないのでしょうか。

これまで「東北は一つ」という合言葉で東北地区高P連はお互いに情報交換をしながら切磋琢磨を続けてきました。進路対策委員会も各県の取り組みを参考に、「高校生のキャリア教育・地元定着」を柱に今年度活動をしてきました。あつという間の一年ではありましたが、皆様のPTA活動の活性化に繋がることを願いながら今年の活動報告書をお届けいたします。

[活動報告]

講演会を開催しました

青森県 古 舘 至



東北高P連進路対策委員会の研修会として、10月18日(木)に青森県総合社会教育センターで開催された講演会に出席しました。当日は青森県高P連進路対策委員会研修会の講演を聴き、その後、各県の特色ある活動について意見交換をしました。講演の講師は大正大学地域研究所教授、浦崎太郎先生でした。浦崎先生は岐阜県立可児高等学校で教鞭をとられていた時、子どもの減少、地域の衰退を経験したことをきっかけに、高校卒業後、進学や就職等で地元を離れていく子ども達をいかにして地元で定着させるかを考え、地域課題解決型キャリア教育を実践してきたそうです。行政、企業、高校生を交えて、地域の抱えている問題とその解決策を探り、実行してきた実例を挙げての講演でした。

学校は高校生を囲い込むのではなく、地域を学びの場ととらえ、身近な情報を集め、地域と関わりを持ち、地域に出て共に活動することが必要とされている。それによって学びは豊かになり、課題を発見する能力を高めることで、20年後、30年後を見据えたその地域の人材育成が可能になる。どんな地域を創り出すのか、どんな若者をどのように育てていけばよいか、学校(教師)と地域の人が対面するだけではなく、対話することで、同じ思いを共有し、信頼を積み重ね、実行していくことが大切で、そのために親としていかに成長していくのか、ということを考えていかなければなりません——と話されました。

地域と学校が一体となったキャリア教育は、これからますます力を入れていかなければならない課題だと強く感じました。このような学びの機会は、各県・各校で行われています。ぜひ、ご参加ください。



講演する浦崎教授



耳を傾ける各県委員

東北地区高等学校PTA連合会 進路対策委員会



委員長	中 村 美津緒 (青森県高等学校PTA連合会会長)
副委員長	古 舘 至 (青森県立七戸高等学校)
副委員長	福 原 忠 博 (山形県立庄内総合高等学校)
委 員	高 城 裕 行 (宮城県石巻高等学校)
委 員	川 口 広 美 (秋田県立小坂高等学校)
委 員	市 川 清 志 (岩手県立花巻北高等学校)
委 員	鈴 木 則 夫 (福島県立平工業高等学校)

「委員からひとこと」 ～ 各県の取り組みを紹介します ～

東北 LOVE♡

福島県 鈴木 則夫



L・O・V・E 東北LOVE♡——この挨拶で、委員長生活がスタートしました。東北進路対策委員会では、各県共通の悩みである、少子化問題を克服するための積極的な内容に、刺激を受けました。福島県も各地区で、地元企業のパネルディスカッションや、「生徒の就職に親ができること」等の話を聞き、強い衝撃を受けました。激しく変化する世界で生きるためには、これまでの固定観念ではなく、新価値観、新想像力、新実行力、新突破力などが大事だと感じました。「複雑な世の中」ではなく、「わくわくする時代を楽しむ！」とマインドセットし、子ども達の成長を見守りたいと思います。東北LOVE♡！

「進路だより」を年3回発行

宮城県 高城 裕行



宮城県高P連進路対策委員会では、県連進路対策委員会所属校が編集を担当する「進路だより」を年3回発行して各校の取り組みを紹介するほか、県内私立大学の説明会と学校施設見学の2回を開催し、委員の知見を深めています。

「進路だより」では、大学のオープンキャンパスに保護者が積極的に参加したり、PTAが面接官となつての模擬面接を実施したりという県内各校の取組を紹介して、情報の共有を図ってきました。進路として進学、就職それぞれ目指すものは違えども、保護者・学校が連携して高校生のキャリア教育に取り組むことの重要性を改めて認識させられた一年でした。子ども達に寄り添い、進路決定のための的確な情報と知識を伝えられるよう保護者としての知見を深めるとともに、PTAとして保護者と学校の情報を共有しながら進路対策活動を進めていきたいと思っています。

保護者による模擬面接

山形県 福原 忠博



山形県は県として委員会は組織化されていませんが、各校の単位PTAが子供達の進路実現のため、特色のある取り組みや進路ごとの施策などにより、将来を見据えた対策を講じております。今後の課題としては、進学・就職に捉われない進路に向けた対策に、入学時から取り組む必要があると思います。また、現在の進路対策は3年次からの取り組みが多く、進路決定の段階からの進路対策への進化・深化を各校に望みたいと思います。

庄内総合高校の進路対策の取り組みは、主に就職希望者を対象としたPTA保護者による模擬面接で、特色としては、前期と後期の2回にわたり実施していることです。先生とは異なる別の人からの面接を受ける緊張感の中で、就職に対する意欲の向上が見られると同時に、企業の選択肢をより広げることができています。

保護者と大学との懇談会

秋田県 川口 広美



秋田県進路対策委員会では、「高校生の将来設計について親の関わり方を学ぶこと」「高校生の進路に関する情報を集約し、共有化を図ること」「行政・関係団体と連携し地元企業の情報収集や研究を推進する」を目標に掲げ活動してきました。進路に対する親の関わり方として就職支援セミナー参加や各校の課題など意見交換を行い共有してきました。地元企業への就職も徐々に増えてきている今、保護者としても選択肢の情報を子供達に伝える事が出来るような活動を展開していきたいと思っています。

秋田大学から、保護者向けの“大学の今”を知っていただく「懇談会」を開催したいと提案がありました。高校生や教員向けの説明会はこれまでも行われておりましたが、保護者だけを対象にした初めての懇談会を開催しました。県内各地から約100名の参加があり、大学の普段を知る絶好の機会でも、また次年度も是非開催して欲しい声も上がりました。

調査データに基づく講演

岩手県 市川 清志



28年度は社会が求める人材と新規学卒者の離職率について企業へのアンケートを、29年度、30年度は前年度までの調査データに基づく講演を実施するとともに、座談会において意見交換の内容をまとめ、リーフレットにして県内各校に配付しました。計画的かつ息の長い取組で、保護者と生徒のために役立つ内容という視点を保ちつつ、進路に係る情報の収集・分析と対策の発信を行っています。

今年度は花巻公共職業安定所所長を講師に招き懇談会を開催しました。——近年、求人倍率は増加しているが、福祉や建設分野の人手不足が原因であり、事務分野はそれほどでもない。岩手は全国に比べて大卒者の離職率が高い。実業高校では就職を意識した教育がなされているが、普通高校では進学が目的となり将来の就職イメージがつかめていない。目指している仕事の内容をよく調べて進路を決定することが重要。——など、有意義な情報交換ができました。